

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第8回 理事会

日 時：2014年 8月 27日（水）19：00～21：30

場 所：コンセーレ

出席者：

- (理 事 長) : 村上(敬称省略 以下同)
(直 前 理 事 長) :
(顧 問) :
(副 理 事 長) : 朝田、木村(英)、福田(之)、小瀧、須山
(専 務 理 事) : 中島(崇)
(監 事) : 黒川、澤畑、飯野
(担 当 常 任 理 事) : 林、金
(全国大会招致会議議長) : 羽石
(会員拡大会議議長) : 太城
(協働連携特別会議議長) : 篠崎
(法令会計審査会議議長) : 廣田
(事 務 局 長) : 橋本
(委 員 長) : 飯沼、新妻、豊崎、中島(晴)、木村(武)、相馬
鈴木(善)
(副 議 長) : 宮林、渡邊、八木、高松、山田、福田(弘)、
安野
(副 委 員 長) : 横島、梅田、岡田、船見、青木

1. 開会宣言 <中島(崇)> (役職名省略 以下同)
2. JCIクリード唱和 <八木>
3. JCIミッション並びにJCIビジョン唱和 <船見>
4. JC宣言朗読並びに綱領唱和 <横島>
5. 関東地区宣言唱和 <福田(弘)>
6. 出席者の確認 <橋本>
出席理事名 30 / 33名
7. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名
議事録：<総務委員会>
議事録署名人：村 上 正 高
黒 川 崇
澤 畑 敦 史
飯 野 貴 道
8. 前回議事録の確認 <中島(崇)>
9. 議題並びに資料の確認 <橋本>

まずは第8回の理事会に多くの理事の皆様にお集まりをいただきましたことに関して、感謝を申し上げるところでございます。また早い時間から今日も当たり前のようにご設営をいただきました総務委員会の皆様、本当にありがとうございます。

いよいよ8月、宮まつりも終わりました、本年度の終着点というのが見えはじめてきた季節になってまいりました。まず宮まつりにおきましては、私個人としては晴れてくれてよかったというところですが、福田副理事長、金常任、そして何より鈴木委員長をはじめとする宮まつり委員会の皆様、本当にリードをしていただき、チャレンジもしていただきましたし、本当によい宮まつりになったと思います。本当に感謝を申し上げたいと思います。そしてその大きな事業、多くの市民を巻き込む事業に多くのメンバーが真剣に2日間向き合ってくださいました。本当にありがとうございます。そしてその宮まつりの最中、わんぱく相撲全国大会のほうにも相馬委員長をはじめ朝田副理事長にも行っていただいたのですが、そこでも本当に子どもたちが快挙といえるような戦いを三回戦までいったのです。近年では本当に素晴らしい成績を今年おさめることができたということに関しましては本当に嬉しく感じますし、土曜日に陽南道場で稽古をした成果、それを支えてくれた委員会のメンバーの皆様のおかげだと思っておりますし、青少年育成という観点で、わんぱく相撲は本当に素晴らしいものだなと思いますし、これがきっと来年以降にも、今年のわんぱく相撲というのは必ず広がっていくというふうに私も確信をしました。ありがとうございました。

今日ですね、この時期ということで皆様方にちょっとお話をさせていただきたい。これは正副でも常任でも少しお話をさせていただきましたので、各担当の副理事長の皆様から伝わっているのかなと思いますけれども、今議案書とかにも添付をしていただいておりますが、皆様それぞれ委員会の事業計画やフローチャートの色塗りをしていただいていると思います。終わった部分、今進捗途中の部分、そしてこれからやる部分ですね。これを是非、委員長の皆様方はこの時期にもう一度見直していただきたいと思うわけでありまして。皆様方それぞれが作った事業計画ですし、それを1年でしっかりとまっとうする、これが非常に大切であると思います。また、12月31日まで是非貪欲にそれぞれの役割というのをまっとうしていただきたいなと思っております。事業が終わって、今年終わりだというふうに思わないで、今年の委員会の活動をいかに来年に繋げていけるか、来年のために準備しておくことを検証する部分、まだまだ議案書が終わったとしても、委員会の皆様で是非話し合っ、たとえば来年の同じ事業を担当する、関連する事業を担当する委員長に渡せる、そんな資料を作るといっても今年の委員会メンバーがさらに活発になると思いますし、何より真摯に最後まで役割を全うするというのが非常にJCにおいては大切だと思いますので、是非ご検討をいただきたいと思うわけでありまして。所信にも書かせていただきましたが、JCを個人の機会と捉えるのであれば、やはりその毎年いただいた役割を演じきるといのが大切であって、そのことが皆様方一人ひとりの大きな成長に繋がっていく、これは皆さんの成長イコール地域の発展にも繋がってまいりますので、是非しっかりお努めをいただきたいと思っております。そして委員長として、やっぱり一番大切なこと、これはお預かりしているメンバーの皆さんをいかに成長に導けるかであると思います。重ね重ねになりますが、委員長として、勿論担当の事業というものはあるわけでありまして、委員長という立場で、いかにどうやってメンバーと接することができるか、そしてメンバーに成長を与えることができるか。これも委員長・副委員長として重要な役割になりますので、しっかりと大きな心と熱い心と面倒見のよい心で最後までメンバー一人ひとりを見てあげてほしい、向き合っしてほしいなと思っております。そしてこれも副理事長の皆様からお伝えいただいていると思うのですが、ビジター拡大の件であります。決して組織を維持するためにメンバーが必要というわけではないのです。これは常日頃から私は言うておりますけれども、維持するためには人数は必要なのですが、ただそれが目的ではない。我々は運動体ですから、やはり1人でも多くの市民を巻き込む。我々のよき理解者、我々のよき同士となつていただくことがイコールこの町の発展に繋がるわけでありまして。皆様方も是非思い起こしていただきたいのは、JCに入る前の自分

と今の自分。成長できたと思いませんか。会社がよくなっていると思いませんか。周りの人間関係が広がっていると思いませんか。是非1人でも多く自分と同じようないい思いをさせていただきたいというふうに思うわけであります。恥ずかしがらないで是非堂々とJCに誘っていただきたいと思ひますし、ビジターで連れてきていただければ、私を含め正副、副理事長も共にしっかりとお話をさせていだいて、JCの意義、そして魅力というものをお伝えしてまいりたいと思ひますので、明日、日本JCの小畑直前会頭がいらっしゃいますけれども、明日是非連れてきていただきたいと思ひますし、また9月例会にありますストリートダンス選手権、こちらも非常に子どもたちが活躍する機会が多くあって、分かりやすいと思ひます我々の事業・運動というのが、そちらにも1人でも多くのビジターを連れてきていただきたいというふうに思ひます。今日の議案でも決算報告議案というのが多く上がってきております。もちろん、一年一年ひとつひとつの事業を検証するのが非常に大切であります。次年度が動き出している時期でありますから、さらに次年度にイメージが付きやすく分かりやすいと思ひますので、そういったものをしっかりとイメージしながら、作っていただきたいと思ひます。

最後に、人事でありますから、今年、来年、それぞれ色々個人で思い入れがあると思ひます。来年、たとえば理事に当選された方は、非常に今モチベーションが上がっている時期であります。反面、理事に当選したくてもできなかったという方は必ずいると思ひます。そういった人たちへの気配りということも、頭の中にしっかりと入れて、これから進めていっていただきたいと思ひます。きっと顔には出さなひです皆。でもこれは思っている人というのは必ずいると思ひますし、もちろん今年の運動を進めるのも大切だと思ひますが、来年に上手く移行していく、そして宇都宮青年会議所を今年よりも来年いい組織にしていかなひといけなひのです。JCは単年度制ですから、これは運動にしても組織としても、必ず進化させていかなひてはいけなひのです。これは一人ひとりの気配りもそうでありますし、事業計画というのもしっかりと真摯に、まあ段取り八分とは仕事でも言ひますが、そういうことも頭の中にしっかりと入れていだいて、今年そして次年度が合わさるこの時期を過ごしていただきたいと思ひます。

それでは、本日の理事会もどうぞ最後までよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

1 1. 直前理事長挨拶

<福田(治)>

遅参のため省略

1 2. 役員報告

<八木> 先ほど理事長の方からもお願ひしていただきましたが、引き続き是非ビジターの会員拡大の方をお願ひいたします。

<金> 日本青年会議所国際グループ会議
8月29日(金) 宇都宮で国際グループ会議開催

<小瀧> 8月30日(土)の松山全国大会の総決起集會に、私と山田君で行ってまいります。全国大会もいよいよ大詰めですので、我々出向者がLOMの諸會議等出られないこともござひますが、ご理解とご協力の程よろしくお願ひいたします。

<船見> 関東地区大会NARITA大会 場所 成田国際文化會館
9月28日(日)

<中島(崇)> 関東地区大会NARITA大会ですが、20名近い出向者も出ささせていただいておりますが、予算の方も全メンバー登録ということで入れさせていただいておりますので、是非1人でも多くのメンバーの動員を、理事メンバーを中心にかけていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

13. 審議事項

審-01 5月例会 わんぱく相撲宇都宮場所 開催報告並びに決算(案)承認の件

審議資料に基づき、相馬委員長より上程文の読み上げ。

<村上> 渡邊副議長コメントをお願いします。

<渡邊> 事業報告書の中の事業対象者、「宇都宮JCメンバーそして市民の皆様」となっていますが、こちらは市民の方が最初に来て、あとがJCメンバーというふうに直します。大変申しわけありませんでした。

<飯沼> フォーマットのなところ事前に気づけず、申しわけありません。議案上程スケジュールおよび対応のところですが、昨日臨時の法令審査会議をやっていたと思っていますが、こちらは第4回ではなく、第7回の臨時法令審査会議となっておりますので、そちらを訂正の上、議案を総務までいただければと思います。よろしくお願いいたします。

<村上> ご指摘のところを最終的に直していただければと思います。

<村上> ご意見・ご質問よろしくお願いいたします。
山田副議長いかがでしょうか。

<山田> 特段ございません。

【採決】 全会一致 審議可決

審-02 6月例会 ASPAC山形大会 対応計画 報告並びに決算(案)承認の件

審議資料に基づき、豊崎委員長より上程文の読み上げ。

<村上> 橋本事務局長補足ございますか。

<橋本> 特段ございません。

<村上> 廣田議長コメントをお願いします。

<廣田> 特段ございません。

<村上> 一点確認ですが、タイトルが変わっていないでしょうか。ASPAC山形大会

対応計画ではなかったでしょうか。

5月30日の臨時理事会では、ASPAC山形大会 対応計画並びに予算(案)で審議を取っているはずですので、こちらの報告決算も同じタイトルにしてください。よろしくお願いいたします。

<鈴木> このASPACを通じて、豊崎委員長が感じたことを教えてください。

<豊崎> はじめての試みで計画とおりにいかなかった点が多かったのですが、ASPAC大会に参加していただいた皆様が本当に積極的に交流だったり、学びだったりというものを取り入れる姿勢というのが大会期間中よく見られたというのが、私の率直な意見として、やってよかったなという感想を持ちました。

【採決】 全会一致 審議可決

審-03 6月事業全国大会招致関連事業 開催報告並びに決算(案)承認の件

審議資料に基づき、福田副議長より上程文の読み上げ。

<福田(弘)> タイトルですが、6月全国大会招致関連事業が正式なものとなります。訂正させていただきます。申しわけありません。

<村上> 羽石議長補足ございますか。

<羽石> 当日はあいにくの天候の中、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。私の意見としましては、別にまとめさせていただきましたので、ご一読いただければと思います。以上です。

<村上> 廣田議長コメントをお願いします。

<廣田> 特段ございません。

【採決】 全会一致 審議可決

審-04 10月例会心のふれあい事業 開催計画並びに予算(案)承認の件

審議資料に基づき、木村委員長より上程文の読み上げ。

<村上> 金常任補足をお願いします。

<金> 特段ございません。

<村上> 廣田議長コメントをお願いいたします。

<廣田> 特段ございません。

- <飯沼> 昨日お受けになった臨時法令審査会議が、意見と対応および議案上程スケジュールから抜けておりますので、第7回臨時法令審査会議をご記入いただきたく思います。よろしく願いいたします。
- <村上> 事業計画の色塗りがされておられませんので、こちらは色塗りした形で最終的に資料を揃えていただきたいと思います。
- <八木> 添付資料である視察のマナーについての意見ですが、目を通させていただいて、これを読むだけでもフォローを寄せるきっかけになるかなと思いましたが、是非足を運ばない方に対しても、こういったマナーだけでも目を通していただくような広報をしていただければと思います。
表題の誤字の修正もお願いいたします。
- <村上> メーリング等で、なるべく多くの人に広報してください。
被災地視察とかも入っていますので、JCがこういうことをやっていることに興味を持つ市民の方もいると思います。隣の県に行く例会ではありますが、前向きに捉えていただいて、ビジターのほうもお声掛けいただきたいと思います。

【採決】 全会一致 審議可決

審-05 8月新入会員認証（案）承認の件

審議資料に基づき、八木副議長より上程文の読み上げ。

- <村上> 太城議長補足お願いします。
- <太城> 特段ございません。

【採決】 全会一致 審議可決

14. 協議事項

協-01 11月例会 まちづくり事業開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、梅田副委員長より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)> 議案ですが、全体的に誤字が見受けられる部分がございますので、そちらを審議までには対応してください。
具体的にはスイーツがひらがなになっていたりCSR企業がSCR企業となっていたりしています。前回常任理事会からの変更点というところで、いろいろな意見をいただいたと思います。たとえば、「自治会のプレゼンとはどういうものなのか確認していますでしょうか」ですとか、いろいろな意見があったと思うのですが、そういったところのプレゼン内容はどうなっているのかというのは、今回も反映されていないと思いますので、こういったものを

自治会と考えているのかというのを添付していただきたいと思います。常任理事会でいただいたいろいろなご意見から、細かなところで今ご上程いただいた変更点が出てきたかと思います。ですが、常任理事会の中で、事業の方向性としていただいたような意見が、実際にはご対応いただけていないか、あまり変わっていないというのが、常任理事会構成メンバーの皆さんはご覧いただいて思った方が多いのではないかと思います。その点に関して、この理事会に向かっていくにあたってどういうふうな考え方を持ってこの議案でこの理事会に臨んできたのかというところは、一度ご説明をいただきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

<梅田> 大枠が変わっていないというのは、具体的にどの部分でしょうか。

<中島(崇)> 事業の作り方といいますか、もちろん目的を達成するためにこれが必要だという書き方をしているのだと思うのですが、それに対して本当にこの目的を達成できるのでしょうかという意見を、常任理事会の中でかなりいただいていたかと思います。実際に中身を見たときに、理事会から根本的に変わった、この事業ならば確実に目標を達成できるというところまで実際に変わっているのかというところが、疑問点が残る部分ということです。

<林> 前回の常任理事会は、所用で出席できませんでしたこととお詫び申し上げます。申しわけありませんでした。前回の常任理事会のご報告をいただきまして、委員会としましては、今後はどういった方向で委員会を進めていくのかという部分について、もう一度改めて見つめなおしました。委員会としましては、これまで上程を何ヶ月か積み重ねてきて、その中では0ベースを2回にして、今回は3回目の内容を組み立てて構築しております。この議案に対する思いというものも非常にございまして、やはり市民が主役のまちづくりというものを達成するために、果たして自分たちが何をすべきなのかというところを再度見直しております。委員会としましては、市民が主役という部分におきまして、まちづくり団体として一番身近な自治会、そしてそれに付随していくNPO団体・市民団体にスポットを当てた事業をしていきたいという強い思いがございまして、手法が目的達成のためには最善であると結論を出しまして、今回再び上程させていただいております。

<鈴木(善)> 前回の理事会で最終決断として、審議までまだ時間があるので、改めて委員会の方で持ち帰っていただいて再度精査し直し検討してよりよいものを作っていくませんか、ということで認識をしていたのです。今回議案のほうを見させていただくと、率直に言わせていただくとあまり変わっていないというふうに思います。そうなりますと、前回の理事会でそれが別に悪いわけではなく、もっとこういうふうにしたほうがいいのではないかという意見を私たちのほうで出したと思うのです。それに対してまた同じような議案を出していただいたとしても、前回の理事会は何だったのかなというふうに思ってしまう部分があります。それに関しましては、逆に前回の理事会の意見等を取り入れ、このように構築してみましたというのを見てみたかったというのもあります。この件に関しましては、委員会や委員長のほうでどのような決断を出したのかお話しいただきたいと思います。

<中島(晴)> 前回理事会からいろいろご意見いただきまして、検討していきました結果、林常任からもお話しいただきましたとおり、市民として一番身近なまちづくり団体としての自治会、それとその他のNPO団体・CSR企業・学生さん

などと連携を取り、まちづくりという部分につきまして市民全体に広げていきたいという思いがまずひとつあります。そしてその部分に無関心相応の市民の皆様に来ていただきまして、意識の変革に繋げて考えていきたいと考えました。前回からNPO団体さんですとか自治会さんと協議させていただいた結果、前回まではアワードといった内容で表彰させていただいて、その内容のプレゼンと考えていたところですが、他の市民団体に関しましては、活動の内容を一般的にしてほしいとの部分がありまして、プレゼンという内容に変えさせていただきました。変更というところに関しましては、アワードとプレゼンというところで大きな違いはないように思われますが、NPO団体などといった団体を全て含めて行う事業が今までなかった部分でございまして、新たな試みとして、前進として構築したいなというふうに考え、事業の構築に至りました。

<木村(武)> 先程鈴木委員長からも出たと思いますが、この参加員計画を見ても、500人中430人が自治会連合会となっています。自治会の取り組みとか帰属意識をとるのであれば、そのプレゼンテーションを見ていただく側の参加者・市民の場所を選定して、多く集められる手法を取り入れてやるべきではないのかなと思います。また私も宇都宮の自治会のプレゼンテーションというものをいろいろ調べさせていただきましたが、清掃や、自治会の体育大会・夏祭りなど、似たり寄ったりが多いのです。逆にここにプラスその他の地域で、自治会単位で動いているいろいろな所と協力して成功した事例というものがあるので、そういったものを展示して見せたり、このダニエル・カールさんも、もう少し精査してもらったり、多分その地域のまちづくりに突起した講師がいると思うので、そういったものを精査してもらえるといいと思います。

<高松> もりだくさんであります。スイーツタイムというのがあって、2,200食を提供するかと思いますが、スケジュールだと5分です。5分で2,200食を出すとなるとかなりタイトなイメージなのですが、時間の精査をされた方がいいのかと思いました。あくまでも意見ですが、市民を動員するのに難しい事業だと思います。もちろん動員について委員会の皆様が頑張るのは分かっていると思うのですが、来ないのを前提として事業を進めてもいいのかなと思いますので、動員の人数にこだわらずに、事業を計画していただいた方が僕はいいかと思います。それをふまえた上で委員会の方でどうやって人を呼ぼうかなど検討いただければと思います。

<梅田> ありがとうございます。スイーツタイムの件ですが、スイーツタイムに入りますが、会場のレイアウトを見ていただければわかるのですが、最初にこのテーブルの上にスイーツの半分をあらかじめ用意しておいて、プレゼンテーションは2部制ですが、プレゼンテーションの1部が終わったと同時に、残り半分のスイーツを出す予定であります。

<山田> 参加団体駐車場は中央小学校グラウンドを使われるということで、どのように駐車されるかのレイアウトを添付された方がいいと思います。

<鈴木(善)> 予算が150万円付いているので、その使い方を考えなくてはいけないと思いますが、その中で梨を協賛企業とプレゼンをしていただいた自治会に渡すのですよね。1つ3000円くらいの梨を、協賛企業などに渡すというのはどうなのでしょう。何が言いたいかという、その150万円を使って一般市民500名を呼びます、その内訳として50万円が講師関係費ですよね。

その他に梨のお金とかいうと、ROMメンバーの年会費を使って私たちは事業をやっていると思いますので、もしかしたらこれは見合っているのかもしれませんが、逆に150万円かけるのであれば、もっと幅広く、せつかく大きな事業なので、もっと幅広く市民にみていただくといいと思いますし、お金の使い道というのも、もう少し考え直していただければと思います。

<太城> いろいろ書いてあるのでわけ分からなくなってしまうかもしれませんが、一言でいうと、どういった例会なのでしょう。

<梅田> 10団体の自治会を支援されている方や学生さんにプレゼンをしていただいて、多くの市民の方にその活動を知っていただくという事業であります。

<太城> そうなると、この事業名の「繋がる 広がる 地域のまちづくりコミュニティ」というところまでいっていないような気がします。ただ自治会がやっていることを発表したというところまでとまっているような気がするのです。このタイトルを付けるなら、そこからどうするのかというのが必要になってくるのではないかと思います。

<新妻> プレゼンのあとの来場者に対する意識調査報告で、「お住まいの地域の問題解決に繋がったと思う方は青い紙・問題に繋がらない、解決に当てはまらない方は赤い紙を上げてください」とあるのですが、結構な方が赤を上げられてしまったら、僕たちは何をやっていただろうということになってしまいますので、たとえば赤を上げないとか、解決に繋がった方だけあげるとかした方がいいのではないかと思います。

<木村(武)> 大学生とかも巻き込むような形になっていると思うのですが、それだと鈴木委員長のおり500名だと少ないと思います。そして太城議長のおり、発展性を市民に聞いていただいて、何かそこから発展性が出てはじめて目的に入っている、帰属意識を調整するということにつながると思うので、もう少し参加推進方法を精査していただいて、大学生を多く呼んでいただいて、大学生も一人暮らししていれば、自分で自治会とかに入ると思います。それで参加していない人に帰属意識を持たせるとか、そういうことにつながると思うので、自治会もすごく難しい団体だと思うので、そこらへんもしっかり見つめて進めていただければまた違った方向性の事業になると思います。

<鈴木(善)> 何度も申しわけありません。ここにいる皆さんはどうか分かりませんが、私的には納得いきません。私が前回の理事会からこうしてほしいとあったのは、これだけの10種の企業、大学とJCが連携して一つの事業を構築するのであれば、このタイトルどおりになると思います。この自治会がこういう活動をしてきました、企業はこうしていきました、我々JCもまちづくりのために何かをやってきたというのがひとつにまとまって、ひとつの事業を展開するというのが「繋がるまちづくりフェスタ」になるのではないかなど。ただこれだけだとプレゼン大会、自分たちはこれをやっている、大学ではこれをやっているという報告だけになってしまうのではないかと思います。となると、これは私個人の意見ですが、そこと一緒になって何か1つのことを展開することが出来たら面白いのではないかなどと思ってしまう。今更ではありますが、まだ頑張れば間に合うのではないのでしょうか。まず現段階でここに出てきている自治会さん・企業さんは前向きです。ということは、その団体と打ち合わせをしてひとつの事業を構築するというのも手法であるのではな

いかなと思います。

<船見> 今回の会場レイアウト図を拝見しまして、展示物がメインとなっていると思いますが、飲食ブースというものは今回設けないのでしょうか。

<梅田> 今このブースが10個できていますが、それぞれのブースでスイーツを配布する場所を設けていまして、あとお茶を出すブースも団体と合わせて出していくような形で考えています。

<高松> 自治会さんの方は、今自治会連合会さんとお話をされていて、これからどの自治会が出るのかはこれから決めるということではよかったのでしょうか。

<梅田> 自治会5団体は大きく分けて5ブロックに分かれているので、そのブロックごとに決めていただいてプレゼンしていただくような形で進めて行っております。

<太城> 私のほうで心配な部分ですが、自治会のイメージとしては年配の方が会長をやっているものなのですが、プレゼントになるとそれなりの資料作成のスキルとかプレゼンのスキルとかが必要になってくると思います。それを考慮せず会長さんが引き受け、やっぱりできませんとか、逆に恥をかかせてしまうとかそういったことが起き得ると感じますが、そのへんの対応はどうなっているのでしょうか。

<梅田> プレゼン方法やパネル展示は、我々宇都宮JCと各団体さんが検討しながら、一緒に作って進めていきたいと考えております。

<中島(崇)> 委員会が主導で作るということでしょうか。

<梅田> そういうわけではないです。

<中島(崇)> たとえばプレゼンにパワーポイントを使うとしたら、パワーポイントの資料だとかは、自治会さんが作って、プレゼン方法とかはリハーサルなどを行って委員会を確認して、もっとこうした方がいいですよとか、そういうのを一緒にやっていくということではよろしいですか。

<梅田> そうです。

<太城> 何となくできないと言われそうな予感がするので、もしこのまま進めるのであれば、委員会メンバーにも相当なスキルや負担が求められてくると思いますが、そのへんの対応もしっかりされたほうがいいと思います。

<金> 前回の常任理事会でメグローザさんのMC司会について質問があったと思いますが、ダニエル・カールさんにメインMCを務めていただくことになっていますが、ではこの方は必要なのでしょうか。

<梅田> メグローサさんには、司会進行をお願いしようと思っています。

<金> これはメンバーとかで司会進行を行なうのとどう違うのか、ご説明ください。

- <梅田> 自治会のプレゼンとかはどうしても堅いイメージなので、メグローサさんはどちらかというと和やかな感じのMCの方なので、そういった方にやっていただいて、会場の堅いイメージを柔らかくしていただこうかという考えで選定いたしました。
- <金> メグローサさんを十二分に発揮できるような打ち合わせ等を進めていただければと思います。
- <木村(武)> この自治会に入っているけど来ていないという若い世代とかも入っているのですが、逆にそういう人たちの自治会に対するイメージというのを、自治会側に聞いてもらう。お年寄りの方が多く堅いイメージなので、もっと若い人に入りやすくするなど、そういった自治会も若い世代を取り込めるような発展する設えをしていただくといいのかなと思います。
- <羽石> 常任意見の11を見させて頂き、今回プレゼンテーションとトークショーをひとつにまとめて、最後にまちづくり共同宣言を行うこととしますという記載がありますが、このまちづくり共同宣言を行う目的や、いつ誰に対してどのように発表するのか教えてください。
- <梅田> プレゼンテーションが終わり次第、各自治会・連合会の会長さん、NPO法人のトップの方、そして行政の方、今は佐藤市長を考えていますが、村上理事長、みんなでまちづくりをして市民が主役で連携できるような共同宣言を、今日は資料添付していないのですが、考えております。
- <羽石> これは調印式みたいなものをするという認識でよろしいでしょうか。
- <梅田> そうです。
- <船見> このNPO参加依頼リストがあると思いますが、このリストの中のNPO法人しか呼ばないのか、これ以外の団体にもお声かけしてよろしいのでしょうか。
- <梅田> NPO法人は3団体を考えております。声かけはまだ1団体にしかしていませんが、今後そういう事も委員会で上げて話し合っていきたいと思っています。
- <八木> ビジターの案内文の送付先についてですが、今回一緒に関わっていただくNPO団体とか自治会さんとか、こちらですでに活動されている方というのはおそらく多くいらっしゃると思います。こういった方たちと接触しているときに、ビジターの案内などをお送りするような、もしくはご案内するようなご予定はございますか。
- <梅田> そのようなことも視野に入れながら、検討していきます。
- <八木> 先日NPOが集うフェスのようなものに参加しましたが、NPO団体に入っている方は会社以外にも他の会に介するような諸団体に入られている方が多くいらっしゃいました。NPOの団体の方というのは、ひとつの課題を解決するためにやっていらっしゃる方が多いのですが、その気持ちの予先自体が我々のようなJCを知ることで、その方たちがいろいろな解決する課題に触れるきっかけとなるとと思いますので、機会を提供するという観点でもJCの

存在を知らせてみてください。

<中島(崇)>理事長コメントをお願いします。

<村上> 議案の書き方と説明の仕方、言葉足らずな部分が多くて、趣旨が伝わりきれていないのかなというふうに感じました。いろいろな細かいことが書いてあるので、議案所自体のポイントが見にくくなっているようです。太城議長も結局どうということだというふうになっていて、発信で終わってしまうでしょうとありました。ただ、これは書かれていることはそうではないと思います。鈴木委員長が言っていたように、何かJCとしてまとめてやったらいいのではないかという意見が出ていましたが、それは共同宣言のことだよね、と僕は思います。この共同宣言というのが肝で、これはとても可能性があってJCとしての運動であると思います。新妻委員長が良いことを言っていました、紙を上げるとか、この聞き方というものをもう少し考えた方がいいということですね。プレゼンテーションしていく、そして来ている人から意見を集約していく、そこで集約された意見を元に共同宣言を作っていく。そしてNPO団体、自治体、JCも含めて同じ方向で向かっていこうよ、というのが共同宣言だと思うので、これはやっていることはまちづくりフェスタというよりは執行準備だと思います。そういうところをポンポンと打ちだせば、もっと分かりやすい事業になるような気がします。

あといろいろと意見がありました、動員の点で、プレゼンテーションする団体しか参加できませんよというような雰囲気があります。これは木村委員長も言っていました、無関心の人でも参加しても良いと思います。そういう方たちがもっと参加すべきだと思うし、大きな流れとしては、形が出来ていると思います。共同宣言の内容も含めて、その動きのある方向性の宣言を出した方がいいと思いますが、細かいところでこれを活かすことはもっとあると思いますので、そこはもう少し突き詰めていってほしいなと思いますし、参加する人も限定をしたら、たとえばダニエル・カールさんと呼ぶ必要ないよね、となってしまいます。有名人を呼ぶのであれば、ある程度の客寄せの観点があると思います。メグローサさんと呼ぶのなら、この方はMCとして会場を盛り上げて一体感を出せる人だからこそ呼ぶわけですから、その辺は明確に理事の方に伝えられるようにしていただきたいと思います。非常に可能性のある事業だと思いますので、期待しております。

協一〇二 8月新入会員認証(案)について

協議資料に基づき、八木副議長より上程文の読み上げ。

<八木> 大塚君のEメールアドレスについてですが、頭文字のAを、小文字に訂正ください。

<中島(崇)>理事長コメントをお願いします。

<村上> 一点確認です。本人が書いているのなら問題ないのですが、このEメールアドレスは大丈夫なんでしょうか。

<八木> 理事会構成メンバー以上になりますと、会社に届け出をしなくてはならず、

一般メンバーの場合はこちらで問題ありません。

<八木> 特段問題ないようでしたら、審議格上げの動議をお願いいたします。

<中島(崇)> 審議格上げの道議がございました。セコンドされる理事の方、右手挙手をお願いいたします。

羽石議長 安野副議長
全会一致 審議格上げ 審議事項5番項

15. 報告事項

報-01 対外出向者について

<中島(崇)> ご一読ください。

報-02 年間公式スケジュールについて

<中島(崇)> ご一読ください。

報-03 2014年度カレンダーについて

<中島(崇)> ご一読ください。

報-04 年会費未納者の報告について

<宮林> 年会費の未納者の報告でございますが、今回は督促状に警告文を付ける形で発送させていただくこととなっております。愉快的内容ではないのですが、除名ということが迫ってまいりましたので、是非皆様に再度納入についてご協力いただくようお願い致します。

報-05 特別会員入金状況について

<中島(崇)> ご一読ください。

報-06

<中島(崇)> ご一読ください。

報-07 ビジター報告について

報-08 ビジター名簿について

<太城> 引き続きビジターのご紹介をお願い致します。

<中島(崇)>明日の小畑直前会頭の講演会、ビジターの動員を一丸となって頑張ってもらいましょう。

報-09 職務執行報告について

<中島(崇)>理事長と専務理事の職務執行の状況を理事会に報告しなければならないというところでございますので、ご報告とさせていただきます。内容につきましては、添付資料をご確認ください。

報-10 立入検査の報告について

<廣田> 7月28日に総会の前段で県の立入検査を受けました。ご協力いただいた理事長、専務、専務経験者の方々、本当にありがとうございました。添付資料にも記載させていただいておりますが、認定基準の違反はなかったということで、めでたく今後とも公益としてやっていけることになりました。ただ、何点か宿題が残されていますので、そちらは今後対応していきたいと思っております。詳細は添付資料を参照していただき、対応経過はまた理事会にて報告させていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

<中島(崇)>立入検査の件について、実際に県提出用計画書・報告書を作成されるのは委員長と副委員長の皆様ですので、内容を必ず確認してください。県の方が計画書・報告書の一言一句まで見ていますので、指導はもちろん法令会計の公務とさせていただきますが、作成するときいろいろなところを注意しなくてはならないというところで、細かな点も記載させておりますので、必ず内容は確認するようにしてください。よろしくお願い致します。

報-11 次回開催について

9月24日(水) 19:00～ コンセーレにて開催。

<中島(崇)>最後に、年会費未納について理事長よりコメントがございます。

<村上> 年会費未納の件も含めてですが、J Cの長い歴史の中で、スポンサーというのがそれぞれあります。最近スポンサーシップ制度というのが敬愛化しているのか、形だけになっているような気がして、認識をしていない理事の方もいるように思えます。自分のスポンサーは誰だか皆さん自覚していますか。推薦人の名前、このビジターの先程の審議資料にもありましたが、要はJ Cの場合はスポンサーが身元保証人になります。これは昔からのJ Cの文化でして、昔でいえば、年会費未納者の分はスポンサーが払わなくてはならないのです。今はそんなことは言いませんが、少なくとも年会費未納の方、逆に自分がスポンサ

一になっている、自分が推薦人になっているメンバーというのは皆さんいらっしやると思います。これは一人ひとり聞いていってほしいです。悩み事はないか、相談事はないかというのを、未納の方は間違いなく何か悩みがあるのだと思います。この人たちのスポンサーになっている人たちも、この委員会の委員長はもちろん、自分の役割として気にかけて欲しいのですが、メンバーに対しては心を寄せて、何か悩んでいないか、そういったことを是非気を使ってあげて欲しいなと思います。そういったところを徹底していくと、やはり気が付くものもありますし、その辺がJ Cの文化としてありますので、理事会構成メンバーの人は特に責任を持って面倒を見てあげるようにしていきましょう。よろしくをお願いします。

16. 監事講評

<澤畑>

お疲れ様でございます。まずは毎回ながら事務、総務委員会、渉外委員会、事務局の皆様は中弛みすることなく、当たり前のようにやっていただいているのですが、素晴らしい理事会設営ありがとうございます。これは手を抜いているということがないなと思います。本当に素晴らしい設営だなというふうに感じます。何一つ変わらない。当たり前の事だけど、当たり前のことが一番難しいです。本当にありがとうございます。

今日冒頭、私もブロックを進行しておりますので、高松副会長セクとして、ブロックのPRに来ていただいて、私もあの頃、去年あんなことやっていたな、なんて思いながら。その頃着ていたスーツを今年始めて着てみたのですが、ベルトをしています。ベルトがいらないくらいになっています。何が言いたいかというと、人としては成長していないけど、体は成長したという次第でございます。当日は完璧なパネル展示を高松副会長とともにやりたいなと思っております。

監事講評としては、予定者の段階から約一年になると思います。一年たった理事会構成メンバー、理事の人たちというものは我々幹事も全然楽しいわけではなくて、できれば「素晴らしいかったです」と言って終わりたかったのですが、もう一回いうしかないなと思いましたが、言わせていただきたいのですが、全体的に簡単に言いますと、もう少し理事一人ひとりが、自分の右手の重さを、ただはいと上げて、はいと下ろして、軽く上げるものではないですね。上げるなど言っているわけではないのですが、質問する側、受ける側、そして審議の時に上げる右手。皆さんの右手には何人の人がいるかなというところをもう一度考えていただきたいと思います。委員会メンバーが、もしかしたらあなたに任せてられないよ、と思っている人がいるかもしれない。勝手に右手を上げてこないでよと怒っているかもしれない。あなたたちが上げた右手を、委員会に戻ったときにきちんと説明できるのかな、と思うのです。一年経ちましたが、それをもう1回考えてほしい。作る側はもちろん真摯に受け止めて作らなくてはいけない、質問する側も仲間として、どういったら良いものになるか、その中でその右手の重さというものをしっかりと考えて臨んでいただきたいと思っております。そして、ひとつだけ具体的に言いたいことがあって、拡大について少し言いたいなと思います。今日少し見させていただきましたが、8月認証で1人、ビジターが1人。これこそ理事会構成メンバーは考え直さなくては駄目です。8月は大詰めです。認証できるのは11月までです。12月はもうできなくて、本当に最終詰めになってきています。前にも言ったと思いますが、拡大委員会はこの時期は宮まつりが終わってからは、さよなら例会に向けて新人教育もしなければならぬ。その事業をしたことがない人たちに事業を教えないかなくてはならない、例会の構築を教えないかなくてはならない。だから太城議長をはじめとする拡大委員会のメンバーは、今本当に大変な時期に入ってきます。そして拡大をしている時間がな

くなってきましたので、よく日程を考えいかななくてはいけないのですが、この大詰め時に、8月認証で1人、ビジターが1人というのは、これこそ大問題だと受け止めてほしいなと思います。そして、当初予定者の段階、今も必ず委員長は見ていただいていると思いますが、委員会概要にあります、どの委員会も与えられた事業や例会を一生懸命やっているとありますが、その中で最後に必ず拡大をなさいと書いてあるはずですが、どの委員会もやることです。例会・事業全て一緒です。そこを読み直していただければ簡単に分かります。自分の委員会概要に必ず書いてあるはずですが、そこをもう一度、終わった委員会もあると思いますが、自分たちがやる事業がないのであれば、委員会メンバーを集めて拡大のことを話せばいいし、本来だったら事業をやりながらもやっていかななくてはいけないことなのですが、今一度その理事としての自分の与えられた立場というのをもう一度考えていただきたいなと思います。それを考えていただければ、全てにおいて上手くいくのではないかと思っておりますので、是非とも残り数ヶ月、まだまだ村上年度は終わっていませんので、精一杯走り抜けましょう。以上簡単ですが、監事講評とさせていただきます。ありがとうございました。

17. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第8回 理事会議事録

議 長：(専務理事) 中島 崇

議事録作成人：総務委員会

議事録署名人：村 上 正 高

黒 川 崇

澤 畑 敦 史

飯 野 貴 道